

地盤工学会関東支部
液状化に係わる被害のメカニズムと名称を考える委員会
2020 年度 第 5 回委員会 議事録

【開催日時、場所、出席】

日時	2021 年 2 月 2 日 (火) 14:00~16:30					形式	Zoom ミーティング	
委員長	吉田 望	○	幹事	石川 敬祐	○	幹事	平松 登史樹	○
顧問	石原 研而	×		沢津橋 雅裕	○		菊本 統	×
	加藤 一紀	○		安達 夏紀	○		原田 健二	○
	石川 明	○		清田 隆	○		飛田 善雄	×
	笹岡 里衣	×		三上 武子	○		澤田 純男	○
	大矢 陽介	○		安田 進	○		加藤 謙吾	○
オブザーバー	青柳 悠大	○						

【配布資料】

資料 2020-5-1 : 2020 年度第 5 回委員会 議事次第

資料 2020-5-2 : 2020 年度第 4 回委員会 議事録

資料 2020-5-3 : 【話題提供_01】清田隆委員

資料 2020-5-4 : 【話題提供_02】安田進委員

資料 2020-5-5 : 「流動に関して」

資料 2020-5-6 : 収集した用語のまとめ方について

【議事内容】

1. 前回議事録の確認

前回の議事録が承認された。

2. 話題提供に関する主だった質疑・説明

<清田委員>

○密度を揃えながら Vs だけを変えるには

予備実験でトライアンドエラーを繰返しながら調整する。

初期密度を下げて開始するなど。

小さい振幅を多く与えると強い構造、再液状化では弱い構造となる。

○Vs*の値はどのように設定するのか

どのような値でも関係式は求められる。

約 5 乗で効いてくるので Vs の精度は重要。

○密度のそろったデータを集めるのは難しい

<安田委員>

○新潟大の先生（Y先生）が昭和大橋まで見に行ったのは誤り

家の生垣から見たというのが真実。時間は正確。

○噴砂が見られるのは振動から時間差がある

基礎などが貫入している場合は地盤の透水係数によるのではなく境界を通る。

○突き上げに対して突き下げはあったのか

あるタイミングではあったのかもしれないが、残っているのは確認出来なかった。

○落橋に際して大きな音などは生じたのか

学生はそう証言しているが、逃げるのに必死だった人は気が付かなかった。

○過剰間隙水圧の抜け（噴砂・噴水）のタイミングについて

模型地盤では比較的早いが、実地盤では細粒分などにより透水係数が小さくなりその影響を受ける。

3. 吉田委員長「流動に関して」

次回の委員会に回す。

4. 収集した用語のまとめ方について

被害事例と名称に分けて整理する。

被害事例についてはメカニズムがよく分かっている・解析が出来るデータがあるものに絞って収集する。

用語については吉田委員長の挙げたものに付け加えていく。

詳細については後ほどメールで連絡する。

今後のスケジュール感について、コロナ禍のこの1年あまり進んでいないので活動期間の延長について調べておく。

5. その他

・委員会資料の共有サイト

<https://mypocket.ntt.com/mypocket/login/>

ID: JGS_Liquefaction Pass: 2019ekijouka

・Zoomの録画をアップロードします。

6. 次回開催日の決定

5月中旬～下旬で調整する。